

# 大熊製作所、栃木に新工場

トラック用  
板金部品など  
**自動化で効率生産**

【さいたま】大熊製作所（埼玉真川口市、大熊高志社長）は、製造工程の自動化を目的に2024年4月をめぐりに新工場を稼働する。栃木工場（栃木県栃木市）近隣の中古工場を購入し、レーザー加工機や自動仕分け装置を順次導入する計画。総投資額は約5億円。自動化設備を活用した高効率な生産体制を構築。価格競争力を強化してトラック用板金部品などの受注拡大につなげ、25年7月期に現状比約35%増の63億円の売上高を目指す。

栃木工場の隣接地の。敷地面積は約1万1千平方メートル。工場を9月中旬に購入し、4000平方メートル。



大熊製作所全体で3000—4000種類のブラケットを製造している

まずは10月に、主力製品で機械部品を車に取り付ける金具「ブラケット」などの倉庫として活用する。現在は外部の倉庫を使っているため、保管費用の削減が見込める。また同業他社からトラック部品事業を承継し、24年4月から部品製造も始める。24年9月ごろにレーザー加工機、同年11月に自動仕分け装置を導入する計画。同装置は鉄板などの材料をレーザー加工機で切断した

後に自動で仕分けして決めた場所を集めるもので、生産効率化が見込める。仕分け工程は従来は人手作業に頼っており、効率化が急務だった。自動化によって生産余力を持てることで、企業からの依頼に迅速に対応する。

さらに24年中期に、栃木工場の近隣に有効活用面積約2万2400平方メートルの別の土地を取得し、新工場を建てる計画。本社工場の機能も新工場に段階的に移転する方針。

大熊製作所はトラックや建設機械など向けブラケットといった金属部品を製造するプレス・板金加工メーカー。板金から塗装までの一貫生産体制を強みとする。